

『文化の里』に、「命・まごころ・知恵・勇氣」の花を咲かせよう

伊自良南小学校

吐く息も白く、冷え切った冬の朝、運動場には子どもたちの歓声が響いています。毎週水・金の朝、全校一四〇人が十グループの縦割り集団ごとに、元氣よく運動に取り組んでいます。また、登校時の児童玄関をはじめ、校舎内には明るい挨拶の声がこだましています。

子どもたちは毎日の生活の中から、学年や男女関係なく仲よくできる「こと」と「会釈をしながら気持ちのよい挨拶ができる」ことを、自分たちの宝物として確認し合っています。そんな子どもたちの日常のひとつまをいくつかご紹介いたします。

「命の大切さ」を実感する
道徳の学習

2月のPTA授業参観では、全学級が「生命尊重」をテーマとした道徳の授業を公開しました。授業の最後には、お家の方



に内緒で書いていただいた手紙を手にして、家族の愛情を一杯受けて育ってきたことを感じ取りました。あらためて、命の大切さに気づくことができました。

仲間のよさを認め合う
「心の花」運動

子どもたちがお互いに、仲間のすばらしい姿や、されどうれしかったことなどをカードに書いて紹介し合う「心の花」運動を行っています。学級の仲間に限らず全校に目を向け、仲間のよさを見つけようとする姿が見られます。

毎週火曜日の「心の日」には、給食時間中に児童会の代表がその内容を紹介します。ランチルームは温かい雰囲気になります。児童玄関の壁には、今年度咲いた「心の花」が満開です。



「聴く・話す」姿勢づくり
毎日の授業の中で、各教室に掲示されている「聴く・話す姿勢のステップ表」を見ながら、めあてをもって取り組んでいます。

普段の授業ばかりではなく、集会など多くの人が集まるところで、話す人をしっかりと見て、「十四の心で聴こう」とする姿が増えてきました。二月に行ったアンケートで「授業は分かりやすく楽しい」と感じている子の割合が高くなってきたのも、こうした姿の高まりと関係していると思われま

「豊かに自己を表現し、進んで人と関わろうとする子を育てる英語活動」の取り組み
平成十七年度から、本校では本格的に英語活動に取り組みんでいます。南小の子どもたちが、人前に立つても臆することなく、自分自身を力強く豊かに表現できるようにすることを願い、学級担任とALTのブリ先生が力を合わせ、「楽しい英語活動」づくりを進めています。



今年度は特に、仲間と関わり合う活動を意図的に設定することで、楽しくのびのびとコミュニケーションできる姿が見られるようになりました。

学校文化の発信としての
『南っ子音楽会』
地元の『花咲きホール』を会場として開催される『南っ子音楽会』は、昨年の十二月に三回目を迎えました。子どもたちは、日頃の練習の成果を出し切ろうと一生懸命歌いきり、「やり切った満足感」を得ることができました。

合唱の指導をして頂いた大沼智幸先生は、高評の中で次のように励まして下さいました。「地域のホールを生かし、学校の文化を育て高めることを通して、文化の里、伊自良としての地域づくりを進めていきましょう。」

学校文化の発信としての『南っ子音楽会』
今年度は特に、仲間と関わり合う活動を意図的に設定することで、楽しくのびのびとコミュニケーションできる姿が見られるようになりました。

